

■進捗状況

短大中項目 1 - 1

公開日：2025年6月

分野	項目名
短大	教育・研究
内容	
<p>社会で輝く女性の育成を目指した教育内容・制度の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの改革。「輝く女性の育成推進」「SDGs 推進」との二つの推進軸</li> <li>・海外研修の充実、資格取得教育の充実</li> <li>・教育制度の改革</li> <li>・教員の研究力の向上。外部研究資金獲得への支援</li> </ul>	
取組状況	
2021年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教養科目、専門科目の充実に向けてカリキュラム改革に着手した。また、カリキュラムポリシーを見直し、具体的な科目等の検討を通して明年度の実施への準備を進めた。</li> <li>・海外研修については、専門的な学びとの連動性を重視し、研修前後で履修すべき科目の整理、SUA短期留学プログラムの授業内容等の改変、充実に努めた。また、資格取得教育については、学習成果を測る指標としての資格取得の推進および、社会のニーズに合わせた資格講座の充実に取り組んだ。</li> <li>・教育制度の改革では、クォーター制の導入、授業時間（100分制）について実現が可能かどうかを含めて検討を開始した。</li> <li>・教員の研究活動の活性化を図り、研究環境の整備と外部研究資金獲得への挑戦を進めた。</li> </ul>
2022年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラムに基づく授業実施を着実に進め、教育内容の定着に取り組んだ。また、進路に応じて効果的に学べるよう、履修モデルの整理を進めた。その他、「輝く女性育成」と「SDGs」の二つの推進については、課外でのセミナーやワークショップなどを実施した。</li> <li>・海外研修については、フィリピン・ミリアムカレッジ語学研修はオンラインでの開催となり、SUA短期留学プログラムとオタゴ大学語学研修は現地で開催した。</li> <li>・教育制度の改革では、クォーター制の導入、授業時間の見直し（100分制）など、集中的に学び、教育効果を上げる環境整備の検討に着手した。</li> <li>・教員の研究力の向上については、業務負担を軽減し研究時間の確保ため委員会等の定員を見直し・削減を行った。紀要についてはSDGs特集号を発刊した。教員の研究活動の活性化をはかり、研究環境の整備と外部研究資金獲得への挑戦を進めた。また、教育・研究業績を評価する仕組みの整備、研究費の傾斜配分について検討した。</li> </ul>

2023年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度からの新カリキュラムが完成年度を迎えた。新カリキュラムに基づく授業実施を着実に進め、教育内容の定着に取り組むとともに、進路に応じて効果的に学べるよう、履修モデルの整理を進めた。また、明年度より始まる少人数、ハイレベルの「ホテル・航空業界特設クラス」の準備を行った。その他、「輝く女性育成」と「SDGs」の二つの推進については、課外でのセミナーやワークショップなどを実施した。</li> <li>・海外語学研修については、アメリカ創価大学短期留学プログラムとオタゴ大学語学研修は現地で実施し、フィリピン・ミリアムカレッジ語学研修はオンラインで開催した。</li> <li>・教育制度の改革では、クォーター制の導入、授業時間の見直し（100分制）など、集中的に学び、教育効果を上げる環境整備の検討を進めた。</li> <li>・本年度は紀要55号を発刊したほか、教員の研究活動の活性化をはかり、研究環境の整備と外部研究資金獲得への取り組みを進めた。また、教育・研究業績を評価する仕組みの整備、研究費の傾斜配分について検討を進めた。</li> </ul>
2024年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は「ホテル・航空業界特設クラス」を開設した。ホテルや航空業界に必要な専門的知識、マナーやサービス実務能力の修得を目指す科目、業界に特化したホスピタリティ&amp;サービス英語科目を実施した。また都内にある日本屈指の高級ホテルで実践的な経験を積むインターンシップを実施し単位認定を行った。</li> <li>・アメリカ創価大学短期留学プログラム、オタゴ大学語学研修ともに現地で実施した。また、資格取得教育の充実については、「資格deキャリア」がスタートし、従来の秘書・一般事務、ICT活用・情報サービスに加え、医療・調剤事務やプライダルサービスなどの新たな資格プログラムを開講した。</li> <li>・紀要56号を発刊したほか、教員の研究活動の活性化をはかり、研究環境の整備と外部研究資金獲得への取り組みを進めた。</li> </ul>
2025年度	
2026年度	
2027年度	
2028年度	
2029年度	
2030年度	

## 事業計画 1 - 1 - 1

達成度 A・・・達成 B・・・一部達成 C・・・未達成

計画名	カリキュラムの改革					
実行開始年度	2021年度					
年度達成度	2021年度	A	2025年度		2028年度	
	2022年度	B	2026年度		2029年度	
	2023年度	B	2027年度		2030年度	
	2024年度	A	最終目標からの達成度		B	

## 事業計画 1 - 1 - 2

計画名	海外研修の充実、資格取得の充実					
実行開始年度	2021年度					
年度達成度	2021年度	B	2025年度		2028年度	
	2022年度	B	2026年度		2029年度	
	2023年度	B	2027年度		2030年度	
	2024年度	B	最終目標からの達成度		B	

## 事業計画 1 - 1 - 3

計画名	教育制度の改革					
実行開始年度	2021年度					
年度達成度	2021年度	C	2025年度		2028年度	
	2022年度	B	2026年度		2029年度	
	2023年度	B	2027年度		2030年度	
	2024年度	B	最終目標からの達成度		B	

## 事業計画 1 - 1 - 4

計画名	教員の研究力の向上					
実行開始年度	2021年度					
年度達成度	2021年度	B	2025年度		2028年度	
	2022年度	B	2026年度		2029年度	
	2023年度	B	2027年度		2030年度	
	2024年度	B	最終目標からの達成度		B	